

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：34401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25463376

研究課題名(和文) 看護系大学に所属する若手教員の学習支援力に関する研究

研究課題名(英文) A study of learning-support competencies of junior faculty at nursing universities

研究代表者

土肥 美子 (DOI, YOSHIKO)

大阪医科大学・看護学部・講師

研究者番号：10632747

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、看護系大学に所属する若手教員(看護職免許を有する大学教員の経験が3年未満で39歳以下の助教)の学習支援力を測定する尺度を開発し、若手教員の学習支援力とその関連要因を明らかにすることである。【学習支援力】を主要概念とした看護大学教員能力自己評価尺度を開発後、若手教員の学習支援力と関連要因の検討を行った。分析の結果、メンタリング、メタ認知、大学教員の経験年数が、若手教員の学習支援力に影響を与え、さらに、自己効力感に寄与することが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this study were to develop a scale for measuring the learning-support competencies of junior faculty of the university nursing programs (assistant professors, who were under the age of 39 and had less than three years' experience as nursing university faculty), and to use this scale to determine the factors related to junior faculty's learning-support competencies. We developed the Nursing Faculty Competencies Self-Assessment Scale using [learning-support competencies] as the main concept, and then used it to analyze the factors related to junior faculty's learning-support competencies. This analysis revealed that mentoring, metacognition, and years of faculty experience affected the learning-support competencies of junior faculty and also contributed to self-efficacy.

研究分野：看護教育学

キーワード：若手教員 学習支援力 能力 尺度 ファカルティ・デベロップメント

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ：看護基礎教育における急激な大学化の中、若手教員の育成が重要課題とされている(唐澤, 2005)。しかしながら、我が国においては、看護学領域における Faculty Development (FD) に関する研究は稀少であり、伊藤ら(2009)、片岡ら(2009)による新人教員の教育・研究活動上の困難や悩みの実態報告と申請者らが行った若手教員を対象にした学習ニーズに関する実態調査(土肥ら, 2012)が存在するだけで、若手教員を含む看護系大学教員の能力について具体的に検討された研究はほとんど見当たらない。国外においては、看護系大学教員の FD 推進のために教員の能力を明らかにしようとする試みがすでに行われており、National League for Nursing(2005)では、看護教育者の準備性を高めるためのコア・コンピテンシーを提示している。Davis ら(2005)は、看護教育者が教育者としての準備性を高めるための指標として、Nurse Educators Competencies (37項目)を明らかにしている。Australian Nurse Teachers' Society では、看護教員に必要とされる能力を教育実践における行動基準として設定している(Guy et al., 2010)。

(2) これまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯：申請者らは、各大学が行うFDが様々であることに着目し、若手教員が必要と考える教育支援を検討する基礎資料を得るため、看護系大学に所属する若手教員(看護職免許を有する39歳以下の助教・助手)の学習ニーズとその関連要因を検討した。その結果、若手教員の学習ニーズとして【研究実践】【実習指導】【看護実践】【組織・制度】【教育活動】が抽出され、若手教員が自らの役割遂行のため学習を求めていることや職位、教育的背景、自己効力感、職務満足感が学習ニーズの関連要因であることが明らかになり、若手教員は

それらを考慮した教育支援が必要であるという示唆を得た(土肥ら, 2012)。また、看護系大学教員の教育および学習支援(Kelly, 2002; Knight, 2004)に関する文献レビューから、わが国の急増する看護系大学における大学教員第一段階の職(文部科学省, 2005)にある助教、特に本研究の対象とする若手教員のFDは取り組むべき重要な課題であると考え。申請者らは、看護系大学に所属する若手教員の学習支援力を測定する尺度を開発し、若手教員に必要とされる学習支援力とその関連要因を探究することで、若手教員のFDの質向上への一助を得ることができると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は看護系大学に所属する若手教員(看護職免許を有する大学教員の経験が3年未満で39歳以下の助教)の学習支援力を測定する尺度を開発し、若手教員の学習支援力とその関連要因を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 若手教員の学習支援力を測定する尺度の開発

若手教員を対象にしたインタビュー調査：看護系大学教員が必要とする能力に関する先行研究(看護職免許を有する大学教員の経験が3年以上で40歳以上の教員を対象にしたインタビュー調査)から得られた結果をもとに、若手教員13名を対象に看護系大学教員が必要とする能力についてインタビューを実施し、その結果から若手教員が必要とする能力が【学習支援力】【社会貢献力】で構成されていることが示された(2013年)。

の研究結果と先行研究結果の比較：先行研究の結果では、看護系大学教員が必要とする能力が【学習支援力】【研究実践力】【社会貢献力】【組織運営力】で構成されており、【学

習支援力】が主要概念であることが確認された。また、【学習支援力】以外に抽出された【研究実践力】【社会貢献力】【組織運営力】についても若手教員の能力としては重要概念であると考え、【学習支援力】を主要概念とした【研究実践力】【社会貢献力】【組織運営力】で構成された看護大学教員能力自己評価尺度原案（144 項目）を作成した（2013 年）。

尺度項目の表面妥当性・内容妥当性の検討：大学教員の経験がある看護教育学の研究者4名にグループインタビューを実施し、尺度項目の表面妥当性・内容妥当性を検討した（2013年）。次いで、大学教員の経験がある看護教育学の研究者10名に質問紙調査を実施し、尺度項目を内容妥当性指数にて精選した結果、【学習支援力】【研究実践力】【社会貢献力】【組織運営力】を構成する134項目が抽出された（2014年）。

看護大学教員能力自己評価尺度の信頼性・妥当性の検討：全国の看護大学教員1,299名を対象に看護大学教員能力自己評価尺度、一般性セルフ・エフェカシー尺度、個人背景を問う質問紙調査を郵送法で実施した。尺度の信頼性は内的一貫性（Cronbach's α 係数）、安定性（再テスト法）にて、妥当性は構成概念妥当性（因子分析、既知グループ法）、基準関連妥当性（一般性セルフ・エフェカシー尺度得点との相関）を用いて検討した（2014年～2015年）。

（2）若手教員の学習支援力とその関連要因の検討：若手教員162名を対象に学習支援力を含む看護大学教員能力自己評価尺度、メンタリング尺度（小野，2010）、成人用メタ認知尺度（阿部ら，2010）、一般性セルフ・エフェカシー尺度（坂野ら，2006）を組み合わせた質問紙調査を郵送法で実施した。分析方法はメンタリング、メタ認知、年齢、大学教員の経験年数が、若手教員の学習支援力に影響を与え、さらに自己効力感に影響するとい

う仮説に基づき共分散構造分析を行った（2015年）。

なお、全ての研究は大阪府立大学看護学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

（1）看護大学教員能力自己評価尺度の信頼性・妥当性の検討：有効回答が得られた326名のデータを分析対象とした。項目分析を経て探索的因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、研究プロセスの遂行 学生との人間関係づくり 学生の臨地実習への支援 教育デザインへの取り組み 学生の主体的学習の促進 地域住民の学習ニーズを反映した支援 組織内における役割の遂行 資源を活用した社会活動 組織メンバー間の良好なコミュニケーション 学生の学習課題に応じた支援 教育活動の質保証への取り組み と命名された11因子82項目が抽出された。各因子のCronbach's α 係数は0.857～0.979であった。既知グループ法では、若手教員と大学教員の経験を3年以上有する40歳以上の教員との能力の比較をMann-WhitneyのU検定にて行った結果、若手教員より大学教員の経験を3年以上有する40歳以上の教員の能力の方が有意に高いことが示された。一般性セルフ・エフェカシー尺度得点と看護大学教員能力自己評価尺度得点との相関は $\rho = 0.237 \sim 0.406$ 、再テスト法による相関は $r = 0.574 \sim 0.801$ であった。以上の結果から、本尺度は内的一貫性と安定性による信頼性、構成概念妥当性、基準関連妥当性を確保しているものと考えられる。

（2）若手教員の学習支援力とその関連要因の検討：有効回答数が得られた86名のデータを分析対象とした。【学習支援力】は看護大学教員能力自己評価尺度の下位尺度のうち 学生との人間関係づくり 学生の臨地実習への支援 教育デザインへの取り組み

学生の主体的学習の促進 学生の学習課題に応じた支援 教育活動の質保証への取り組み から構成されるものとし、これらの合計得点を観測変数として用いた。分析の結果、メンタリング、メタ認知、大学教員の経験年数から学習支援力へのパス係数、学習支援力から自己効力感へのパス係数は有意を示した。しかし、年齢から学習支援力へのパス係数は有意でなかったため、パスを削除し再分析を行った結果、モデルの適合度は、GFI = 0.916、AGFI = 0.845、CFI = 0.982、RMSEA = 0.060 を示し許容範囲内であった。メンタリング、メタ認知、大学教員の経験年数から学習支援力へのパス係数の標準化推定値は、それぞれ 0.307、0.614、0.135、学習支援力から自己効力感へのパス係数標準化推定値は 0.682 であり、全て有意を示した。決定係数は学習支援力 0.59、自己効力感 0.10 であった。メンタリング、メタ認知、大学教員の経験年数が、若手教員の学習支援力に影響を与え、さらに、自己効力感に寄与することが明らかになった。この結果は、若手教員の Faculty Development を効果的に推進するための情報提供になり得るものと考えられる。

<引用文献>

阿部真美, 井田政則(2010): 成人用メタ認知尺度の作成の試み, 立正大学心理学研究年報, 1, 23-34.

Davis, D., Stullenbarger, E., Dearman, C., et al.(2005): Proposed nurse educator competencies: Development and validation of a model, Nursing Outlook, 53(4), 206- 211.

土肥美子, 細田泰子, 星和美(2012): 看護系大学に所属する若手教員の学習二一ズとその関連要因, 大阪府立大学看護学部紀要, 18(1), 33-44.

Guy, J., Taylor, C., Roden, J., et al. (2010): Reframing the Australian

nurse teacher competencies: do they reflect the 'REAL' world of nurse teacher practice?, Nurse Education Today, 31(3), 231-237.

伊藤良子, 大町弥生(2009): 看護系大学の新人教員が看護学実習指導において感じた困難の要因, 看護教育, 50(5), 414-422.

片岡三佳, 西山ゆかり, 千葉進一, 他 (2009): 看護系大学に勤務する新人教員の教育・研究活動に対する悩み, The Journal of Nursing Investigation, 7(1), 2, 23-29.

唐澤由美子(2005): 看護系大学におけるファカルティディベロップメントに関する調査研究 若手教員の能力開発に着目して, 平成 14 年度 16 年度科学研究費補助金基盤研究 C(2)研究成果報告書, 文部科学省.

Kelly, C. M. (2002): Investing in the future of nursing education, Nursing Education Perspectives, 23 (1), 24-29.

Knight, K. (2004): Nursing students in waiting: Who will team them? Nursing Spectrum, <http://community.nursingspectrum.com> (2012 年 10 月検索)

文部科学省(2005): 中央教育審議会大学分科会大学の教員組織の在り方に関する検討委員会 (第 12 回) 議事録・配付資料, 資料 2 「新職」等の定め方について,

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/008/gijiroku/05022301/001.htm (2012 年 10 月検索)

National League for Nursing(2005):

Core Competencies of Nurse Educators with Task Statements, [http:// www.nln.org/profdev/corecompletter.htm](http://www.nln.org/profdev/corecompletter.htm)(2012 年 10 月検索)

小野公一(2010): 働く人々のキャリア発

達と生きがい - 看護師と会社員データ
によるモデル構築の試み, ゆまに書房,
東京.

坂野雄二, 東條光彦, 福井至, 他(2006):
一般性セルフ・エフィカシー尺度,
KOKORO NET CO., LTD, 東京.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1件)

土肥美子, 細田泰子, 看護大学教員能力
自己評価尺度の内容妥当性の検討, 大阪
医科大学看護研究雑誌, 査読有, 第7巻,
2017, pp90-97,
[https://www.osaka-med.ac.jp/research/
nursing-magazine/tpv6n4000000p78-
att/12.pdf](https://www.osaka-med.ac.jp/research/nursing-magazine/tpv6n4000000p78-att/12.pdf)

〔学会発表〕(計 6件)

Doi, Y., Hosoda, Y., Factors related to
learning-support competencies of
junior faculty at nursing universities,
Nursing Education Research
Conference, April 21, 2018,
Washington, DC

Doi, Y., Hosoda, Y., Nursing faculty
competencies and related factors of a
junior faculty belonging to a nursing
program in universities, 20th East
Asian Forum of Nursing Scholars,
March 10, 2017, Hong Kong

Doi, Y., Literature review: Nursing
faculty competencies, The 4th China
Japan Korea Nursing Conference,
November 13, 2016, Beijing

Doi, Y., Hosoda, Y., Examining the
Nursing Faculty Competencies
Self-Assessment Scale's reliability and
validity, The 4th China Japan Korea
Nursing Conference, November 13,
2016, Beijing

Doi, Y., Hosoda, Y., Assessing the
content validity of the Nursing
Faculty Competencies Self-
Assessment Scale, 19th East Asian
Forum of Nursing Scholars, March 14,
2015, Chiba

土肥美子, 細田泰子, 看護系大学に所属
する若手教員が必要とする能力の検討,
第24回日本医学看護学教育学会, 2014
年3月9日, 益田市

〔その他〕

ホームページ等

[https://www.osaka-med.ac.jp/deps/dns/teac
hers/yoshiko_doi/index.html](https://www.osaka-med.ac.jp/deps/dns/teachers/yoshiko_doi/index.html)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

土肥 美子 (DOI, Yoshiko)
大阪医科大学・看護学部・講師
研究者番号: 10632747

(2)研究分担者

細田 泰子 (HOSODA, Yasuko)
大阪府立大学・看護学研究科・教授
研究者番号: 00259194